

小松電機産業

放射線監視をクラウドで

災害強く安価なサービス発表

放射線の空間線量や排水路なども連続測定・記録が可能。設置作業は約二時間程度で、費用は三十〜五十万円。

同社は二十三日から三日間、福島県郡山市で開かれる「水道展」(主催・日本水道協会)でPR展示する。

の為の従来の用地買収が不要。パケット通信により、タブレット端

末やパソコンからも放射線のモニタリングができる。

無線を使用しているため、災害時も利用できるのが特徴で、

松江市乃木福富町の小松電機産業株式会社(小松昭夫社長)は十九日、雨水・下水マンホールポンプなど既存の施設に設置できる放射線観測ユニットによるモニタリングサービスを開始したと発表した。無線により携帯端末で常時確認が可能。災害に強く、クラウド技術などによる安価なサービス提供を目指している。クラウド型リアルタイム監視サービスは業界初。

同システムは、設置



同社の放射線モニタリングユニット= 19日

施設をリアルタイム監視

小松電機産業
「やくも水神」

放射線モニタリングも開発

小松電機産業はこのほ
「環境放射線モニタリングシステム」を開発した。23
日、クラウド型総合水管
を
活用した「リアルタイ



マンホールポンプ制御盤に取り
付けた放射線観測ユニット

ム監視サービス」と「環
境放射線モニタリングシ
ステム」を開発した。23
日から開催中の郡山水道
展（23～25日、日本水道
工業団体連合会主催）の
同社ブースに展示されて
いる。

「やくも水神」は、広
域無線パケット通信網を
利用した施設の遠隔監視
システム。タブレット端
末などのモバイル機器

で、詳細な施設情報の確
認・共有、運転管理がで
きる。施設は上下水道や
農業集落排水施設、ゲー
ト、河川水位、ため池な
どに対応でき、今年9月
末現在で、305自治体
の6600施設で採用さ
れている。

「リアルタイム監視サ
ービス」は、現地計測デ
ータを最短3秒間隔で、
自動的に監視画面に反
映。島根県浜田市の上水
道2施設で試験導入され
ている。

また、「環境放射線モ
ニタリングシステム」
は、既存の上下水道設備

に、放射線観測ユニット
や放射線モニターを組み
込み、タブレット端末な
どで監視。現在は環境放
射線量のモニタリング
で、福島県須賀川市で試
験導入している。

同社は排水路や河川底
部などの水中モニタリン
グの検討も進めている。
これらを本格的に実用化
することで、災害に強
く、低コストで高い安全
性を有する効率的な水イ
ンフラの一元管理である
「広域クロスオーバー管
理」などを提唱してい
る。

放射線量 安価に監視

小松電機産業 スマホで確認可能

上下水道の管理システムを手掛ける小松電機産業（松江市）は、大気中の放射線量をリアルタイムでスマートフォン（スマホ）などを使って確認できる監視装置を発売した。マンホールポンプ制御盤など既存の水道関連設備に装着することで、従来の一般的な監視設備に比べて低価格で提供できるといふ。

太陽電池を利用するタイプは150万円から。観測データは東京都内と松江市内にある同社のデータセンターへ送り、パソコンやスマホなどでインターネットを通じ数値を閲覧できるクラウド方式を採用した。

監視機器を設置するために用地を取得し、専用線を引いて中央監視装置

で数値をチェックするシステムと比べて導入コストを大幅に抑制。設置も約2時間の工事で完了するといふ。水中の線量を計測するタイプも今後投入する計画だ。

福島県須賀川市で試験導入を始めており、今後は福島県内の自治体のほか、全国の原発立地地域などへの販売を見込む。

「関門海峡道路」へ調査

福岡県 6年ぶり、財政難で中断

福岡県は北九州市と山口県下関市を結ぶ新たなルートとなる「関門海峡道路」の具体化に向けた調査を今月下旬から実施する。同道路は1990年代から地元自治体などが建設に向けて調査してきたが、財政難などで中断されていた。調査再開は6年ぶりとなる。

関門海峡道路は九州と

山陰経済

経済情報は本社経済部へ

TEL0852(32)3330

放射線モニタリングシステム

小松電機産業(松江)が商品化

上下水道用 福島で試験導入 制御盤に追加

上下水道を遠隔監視する制御システム開発を手掛ける小松電機産業(松江市乃木福富町、小松昭夫社長)が、放射線モニタリングシステムを商品化した。上下水道用の制御盤にシステムを追加できるため、これまでの納入先

に売り込むことで、効率的に普及が図れる。福島県内ですでに試験導入が始まっており、原発立地地域を中心に、自治体向けの需要を見込む。

同社は、上下水道の制御盤を設置し、遠隔監視する制御システムは、今回のシステムはこれに放射線監視機能を追加。制御盤に放射線センサーとモニターを追加し、空間線量を測り、同様に遠隔監視できるようにした。



小松電機産業が商品化した放射線モニタリングシステム。同システムで測定したデータはパソコンや携帯電話で確認できる。松江市乃木福富町、同社

パソコンなどの画面上で、風向きや強さ、放射線量といった観測データが把握できる。整備済みの制御盤に取り付けるため、新たな用地買収などのコストが抑えられるメリットがあり、他社製に追加設置することも可能という。導入費用は50万円からとした。

このほど、福島県須賀川市が2基を導入。23日から3日間、同県郡山市で開催中の「郡山水道展」でPRし、普及を目指す。

水中の放射線量や微小粒子状物質「PM2.5」、浮遊粒子状物

質(SPM)を計測するシステムの開発も検討しており、小松社長は「技術を進化させ、社会のニーズに応えて」と話した。

放射線量を遠隔監視

松江・小松電機 水道システム応用

タブレット端末やスマートフォンで放射線量を遠隔

監視できるサービスを、松江市の水道管理システム開発会社・小松電機産業（小松昭夫社長）が開発した。従来の水道管理システムを応用しており、同社は「災害時でも放射線の汚染状況

を迅速に把握できる」とアピールしている。

同社は2000年、携帯電話回線を利用した水道の遠隔管理システムを開発。10年には、運転状況をiPhone（アイフォン）やiPad（アイパッド）などの端末でも見られるよ

う改良し、現在306自治体が採用、6800施設で稼働している。

新サービスは、この水道管理システムを活用。街頭のマンホールポンプ制御盤に設置された専用装置から即時に届く放射線量の計測値を、スマホやタブレット端末の専用アプリを使って監視する。同時に複数地点の計測値を確認できるため、放射線の拡散状況や放

射線量が局所的に高いホットスポットの把握に利用できるといふ。

監視装置は8月から、福島県須賀川市の2か所の水道設備で試験運用中。既存の上下水道設備をモニタリングポスト（放射線観測装置）として使用できることから、同社は「用地買収の費用もかからず、ローコストで実用可能」とアピールしている。

リアルタイムで監視

最短3秒間隔で把握

やくも水神 放射線監視も開発

小松電機産業

小松電機産業(小松昭夫社長)は、クラウド統合水管理システム「やくも水神」でクラウド型監視としては業界初の「リアルタイム監視サービス」を開始した。ウェブ監視ながら、最短3秒間隔で水位等の現地計測データを監視画面に反映させる。島根県内の2施設で試験運用している。併せて観測ユニットをマンホールポンプ制御盤に取り付けるだけで、その日から環境放射線の観測・監視を開始できる「環境放射線モニタリングシステム」も開発、福島県内で試験運用を行っている。



環境放射線モニタリングシステムの監視画面

「やくも水神」は今年9月末現在で全国306自治体、6800の施設で採用されている上下水道など水関連施設の管理システム。通信には広域無線パケット通信網を利用し、事務所のパソコンのほか、スマートフォン等のモバイル端末でシステム運用が可能。専用回線や中央監視装置の設置は不要なため、初期・運用コストの低減が可能としている。

「リアルタイム監視サービス」は、通信技術革新の反映により、施設の状態を通常は10秒、ターボモード時は3秒間隔で更新し、自動的に監視画面に反映させる。これにより、複数の職員が事務所の大画面で施設の状況をリアルタイムで把握しながらの水運用、漏水事故等発生時に担当職員が現場のモバイル端末で刻々と変化する流量・水位等の計測値を見ながらの復旧作業といった活用も可能になる。

末でも環境放射線の観測・監視をスタートできるシステム。既存施設に設置するため、新たに用地を買収する必要はない。このほか電源が引けないなどといった場合に合わせ、ソーラー蓄電池で稼働する放射線観測盤も用意している。約2時間で設置できる。

小松電機産業

クラウドで水位監視

やくも水神 リアルタイム計測 で新サービス



環境放射線モニタリングシステムの監視画面

小松電機産業(小松昭夫社長)はこのほど、クラウド統合水管理システム「やくも水神」でクラ

ウド型監視としては業界初の「リアルタイム監視サービス」を開始した。ウェブ監視ながら、最短

3秒間隔で水位等の現地計測データを監視画面に反映させる。島根県内の2施設で試験運用している。あわせて観測ユニットをマン

ホールポンプ制御盤に取り付けるだけで環境放射線の観測・監視を開始できる「環境放射線モニタリングシステム」も開発。福島県内で試験運用を行っている。

「やくも水神」は今年9月末現在で全国306自治体、6800の施設で採用されている上下水道等、水関連施設の管理システム。通信には広域無線パケット通信網を利用し、パソコンのほか、スマートフォン等のモバイル端末でシステム運用が可能。専用回線や中央監視装置の設置は不要なため、初期・運用コストの低減が可能としている。

「リアルタイム監視サービス」は、通信技術革新の反映により施設の状態を通常は10秒、ターボモード時は3秒間隔で更新し、自動的に監視画面に反映させる。これにより、複数の職員が事務所の大型画面で施設の状況をリアルタイムで把握しながら、または担当職員が現

場のモバイル端末で刻々と変化する流量・水位等の計測値を見ながら、集中豪雨対応などに努めることも可能になる。

「環境放射線モニタリングシステム」は、マンホールポンプ制御盤等に観測ユニットを設置するだけで、その日からパソコンのほか、モバイル端

末でも環境放射線の観測・監視をスタートできるシステム。既存施設に設置するため、新たに用地を買収する必要はない。

このほか電源が引けないなどといった場合に合わせ、ソーラー蓄電池で稼働する放射性観測盤も用意している。約2時間で設置が可能だ。